

◆ 「デルメッド ものづくり宣言」において持続可能な未来に向けた処方開発に挑む バルクチームの取り組み！

2021 年 10 月

美容成分の開発・製造・販売とオリジナル通販化粧品ブランド「デルメッド」を展開する三省（さんしょう）製薬株式会社（本社：福岡県大野城市 代表取締役社長：陣内宏行）では、当社の企業・事業動向やトピックスをニュースレターとして定期的に発信しています。

今回のニュースレターでは、2021 年 3 月に発表した「デルメッド ものづくり宣言」において、「処方開発」に取り組むバルクチームの想いや取り組みをご紹介します（※バルクとは充填前の中身のことです）。

また後半では、9 月 28 日に実施した美容成分の新工場「佐賀工場 B 棟」の落成式の様子をご報告します。

< デルメッド ものづくり宣言 >

さらに、これからのデルメッドは
未来を見据えた 新たな約束をいたします。

2021 年を迎えた今、
私たちはさらなる未来を見据えた新しい取り組みとして、
デルメッド“ものづくり宣言”を策定しました。
今までの厳しい品質基準に加え、
エコ、エシカル、サステナブル、ダイバーシティといった考えを取り入れた、
新時代のものづくりへと進化させていきます。

チームで SEED（サステナブル、エコ、エシカル、ダイバーシティ）を検討。

当社は「よりよい成分 よりよい化粧品 4.0」というコンセプトを掲げ、2019 年 11 月、当社が大事だと考える要素であるサステナブル、エコ、エシカル、ダイバーシティ（※頭文字を取って SEED）を検討するプロジェクトをスタートしました。

その後、昨年 4 月に原料・処方開発に取り組む「バルクチーム」と容器開発を担当する「パッケージチーム」の 2 チームを編成し、SDGs も加えた検討を進めてきました。バルクチームは、①トレーサビリティ確保、②児童就労・労働搾取なし、③環境負荷低減、④石油由来原料の削減を大方針として取り組んでいます。

今年の 9 月には、「デルメッド プレミアム シリーズ」の基礎化粧品 3 品をリニューアル新発売するなど、具体的な成果も出始めています。

今回ご紹介する「バルクチーム」はリーダーの中村奈津美、萩尾利和、稲田ゆう子、福田真由の 4 名で構成しています。全員、製品開発部に所属しています。



（左より）萩尾、稲田、中村、福田

バルクチームに入ったことが、SDGs を意識するきっかけに。



【萩尾】 そもそも、チームの前身である 2019 年に発足したプロジェクトにリーダーとして参画していました。当時から、“ヒトにも地球にも優しいものづくりをしていきたい”という思いで取り組んできましたが、バルクチームのスタート後は、多くの企業が SDGs 対応に力を入れていることを改めて知りました。今では、社会全体が SDGs を重視する流れに変わってきていると感じます。恥ずかしながら、プロジェクトにかかわらなければ SDGs という言葉にはあまり興味がなかったかもしれません。

でも、意識するようになったからこそ、世間の SDGs への意識が加速的に増していると感じられたし、取り残されないようにしなければ、という焦りも覚えました。日常生活では、当たり前のことですが、ごみの分別や不要な電力の削減などをより意識するようになりました。



【中村】 萩尾さんに声をかけてもらってバルクチームに入り、リーダーを任されることとなりました。チームができる前は、SDGs は知ってはいましたが、詳しいわけではありませんでした。チームに参加したことをきっかけに、SDGs の重要性を認識し、日本や世界に目を向けるようになりました。



【稲田】 最初は SDGs に興味や関心が高くはありませんでしたが、環境問題の現状や持続可能な社会について学ぶにつれ、テレビやお店でも SDGs 関連の話題や商品を目にすることが多くなったように思います。今では、SDGs は日本だけでなく世界全体で取り組まないといけない、無視できないことだと感じています。



【福田】 チームで学んだことによって、プライベートでも SDGs に沿った商品を見かけると、「どの部分が SDGs に配慮した商品なのか」が気になって調べるようになりました。実際に購入して、原料だけではなく使用感なども気にするようになりました。

「持続可能な地球環境ファースト」を信念に、新たなルール作りに挑む。

【中村】 まずは環境問題の現状や対策、SDGsについて皆で学び、共通の課題認識を持ちました。その上で、当社製品に使われているすべての化粧品原料の再評価と再選定をすることになりました。具体的には、①取引先メーカーに原料について尋ねる書類を作成し記入してもらう、②回答結果から評価方法や採用可否判断の基準を設定する、というステップです。SEEDを取り入れた当社のものでづくりの根幹となる「新たなルール」づくりに取り掛かりました。

【萩尾】 再評価や再選定にあたっては、どんなに使い勝手の良い原料であっても、SEEDの概念に適合しなければ、どんな妥協も許さない「持続可能な地球環境ファースト」を信念として進めることをメンバーで共有しました。このバルクチームは、私たちが所属する製品開発部とは全く別の組織体であるという認識が重要だと思っています。

手探りの中、約半年をかけて取引先への確認書類づくりに奮闘。

【中村】 デルメッドで使用しているすべての化粧品原料の確認が必要だと考え、取引先である原料メーカーに回答していただくための「SDGsに基づく調達基本方針回答書」の作成に着手しました。環境や倫理面に配慮したSEEDな原料であるかを調査するのが目的ですが、まずはその内容を話し合うところから始めました。

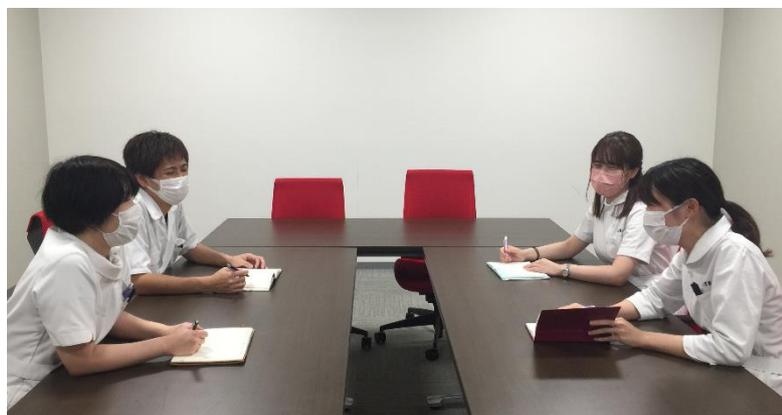
話し合いには約半年かけ、皆でじっくりと議論を重ねました。その結果、●トレーサビリティ（原料の起源等、植物の場合は管理栽培されているかどうかも含む）、●すべてのサプライチェーンにおいて公正な取引がされているか、●動物実験はしていないか、●製造過程での児童就労や労働搾取の有無、●排出時の環境負荷、●製造工程中の廃棄物について違法な廃棄方法がとられていないか、等の項目を盛り込むことになりました。

【萩尾】 業界のスタンダードやお手本があるわけではないため、全て手探りで進めていきました。当初は何をしたらいいのか、と途方に暮れるような気持ちになることもありましたが、そういう時は常にSEEDの原点に立ち返って考えるようにしてきました。

全取引先に「SDGsに基づく調達基本方針回答書」への記入を依頼。当初は戸惑いの声も。

【福田】 当社が取り扱う原料1品目ごとに回答書を準備し、昨秋から取引先の原料メーカーに配布したところ、戸惑いの声や質問項目の内容についてのお問い合わせをいただくこともありました。例えば、「排出された時に環境負荷を与えないかどうか」という項目について、その基準や言葉の意味について聞かれることも多くありました。

【福田】 そこで、原料そのものではなく、化粧品に配合した場合の濃度・分量を海に排出した場合の環境負荷を聞くように質問項目の表現を修正するなど、細かい改善を重ねていきました。取引先とのやりとりは最初からスムーズなものではありませんでしたが、都度メンバーで検討して丁寧な説明を心掛けることで、取り組みの重要性も理解していただけるようになったと思います。



取引先からの回答結果をもとに、8ヶ月をかけて独自の採用基準を練り上げる。

【中村】 次のステップは、回答結果をもとに評価基準を作ることでした。過去事例や参考資料がないため、ここでも試行錯誤が続きました。

検討には約8ヶ月かかりましたが、回答内容ごとに点数をつけてそれを合計し、一定の点数を基準に採用の可否を決める手法に決着しました。

【福田】 ただし、単純に点数だけで採用・不採用を決めるのではなく、例えば動物実験をしていれば「不採用」とするなど、細かいフローチャートもあわせて作成しました。

特に、環境負荷については、「排出された場合、生態系にどの程度影響を及ぼすか」という情報と、当社工場で生産後に製造設備を洗浄する際に流れ出るバルクの想定量を計算して、「環境負荷を与えない」と判定できる厳しい基準を設けました。また、中には安全性にかかわる情報がなかったり、計算できないものもありました。その場合は、人間にとって安全な配合量を最低限の目安として社内でパッチテストを実施し、その結果を参考にするなど、データに基づく工夫を重ねました。

【福田】 このようにしてチームで作上げたルールを製品開発部で処方を担当している部門に伝えたところ、さらに再考を求められることもありました。そんな時はまた皆で話し合い、原料によっては採用・不採用だけではなく「配合上限」を決めるなど、ルールを磨いていきました。

【中村】 検討にあたっては、各自が宿題として課題を持ち帰り、週1回ミーティングを開いて進めてきました。普段の仕事にプラスしての作業だったため、それぞれ負担もあったと思いますが、かじこまった感じではなく、皆が自由に発言しながら考えていけたのは良かったと思います。

今後は、デルメッド全商品への反映に加え、社内外を巻き込みながら「よりよい成分、よりよい化粧品」の開発に邁進したい！

【中村】 デルメッド全商品に使用する原料を評価・選定し、商品への反映を進めています。また、社内にSEEDの取り組みを浸透させていくことも重要だと考えています。会社全体で意識をもって取り組めるように、バルクチームからも働きかけをしていきたいです。

【萩尾】 「デルメッドはヒトにも地球にも優しいブランドです」と胸を張って言えるよう活動を続けていくと同時に、社内外への啓蒙活動を通じて、1人でも多くの方にSDGsについて考えてもらえるよう働きかけていきたいと思っています。

【福田】 容器の改良に取り組むパッケージチームとは違って、バルクチームの取り組みは目に見えてわかりづらいのが難点だと感じています。SEEDを取り入れたバルクというのは、社内でもピンときていない人が多いかもしれません。社内の他部署の人たちにも理解してもらうことはとても大事だと思います。



【稲田】 処方開発の担当者が使いやすく、使用感も良く、最終的にお客様に喜んでいただけるような、SEED の概念に沿った新しい原料も探していきたいと思えます。当社は美容成分（化粧品原料）を開発するメーカーでもあるので、SEED に沿ったオリジナルの美容成分開発も後押ししていきたいです。

【中村】 当社は美容成分を自社開発できる点が大きな強みでもあります。当社開発による SEED に沿った美容成分では、福岡県八女産の竹（孟宗竹）を原料とした美容成分（竹幹表皮エキス）があります。

「yameKAGUYA」という化粧品ブランドとして展開しており、放置竹林対策にもつながるアップサイクル化粧品として好評いただいています。社会課題の解決につながる美容成分の開発にも、バルクチームとして貢献していきたいと思っています。

* * *

【 会社概要 】

- 社 名 三省製薬株式会社 (Sansho Pharmaceutical Co.,Ltd.)
- 創 業 1960 年 3 月
- 代表取締役社長 陣内 宏行
- 資本金 8,767 万円
- 売上高 25 億 9,600 万円(2021 年 3 月期現在)
- 事業所 <本社>
〒816-8550 福岡県大野城市大池 2 丁目 26 番 7 号
<東京オフィス>
〒107-6218 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウンタワー18F ワークスタイリング内
<佐賀工場>
(化粧品原料製造および化粧品製造業者として COSMOS 認証取得工場)
〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町 5 番 1
- 事業内容 化粧品原料の開発、製造、販売
医薬部外品・化粧品の開発、製造、販売(通信販売・OEM)
- 社員数 120 人 (パート社員含む)
- URL <https://www.sansho-pharma.com/>
<https://www.dermed.jp>